

第5回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成16年3月25日(木)13:30~16:00

項目	発言者	意見	内容	対応
<白岩川水系河川整備計画>				
河道	A委員	導流堤の影響について	導流堤を沖に出し、河口を西側に向けるが、その場合、沿岸流による西側の侵食等の影響はどの程度となるのか。	沿岸漂砂は東から西へと流れているが、白岩川河口部の沖に海底峡谷(あいがめ)が発達しており、白岩川の東からの漂砂は、ほとんどこの海底峡谷に流れ込んでいる。このため、白岩川の東から西へは土砂の移動がほとんどない状況であり、導流堤の設置による影響はないものと考えている。
<上市川水系河川整備基本方針>				
環境	B委員	汽水域について	河口部の汽水性が弱いというが、なぜ海水が入ってこないのか。河口部を見る限り、流れが緩やかで水が溜まっている感じがする。	上市川の河口部には土砂が堆積しており、海水の入り込みが比較的少ない状況にあり、汽水性が弱いと考えられる。
正常流量	B委員	正常流量の設定について	アユの産卵条件により、正常流量を合口堰堤直下流で設定されているが、更にその下流でも流量は満足するのか。	正常流量は、基準地点より下流の区間においても、それぞれ満足するような流量となっている。
<共通事項>				
環境	B委員	改修計画の考え方について	河川改修により、河川環境にある程度マイナスを生じるのはやむを得ない。それをいかに小さくするのかに最大の留意を払うべきである。改修する部分だけではなく、河川の源流から河口にかけて堤防の勾配、河床の状態、横断構造物などがどのようになっているのかという河川全体を見渡した計画をするべきである。	計画段階から工事の実施に至るまで環境に与える影響が極力小さくなるよう努めたい。 上流から下流まで、水系全体を把握して、整合性のある計画策定に努めたい。
	C委員	改修済み区間について	改修時には最善の手法が、時間がたつて考え方が変わり、今日の観点からは変えた方がよい物もあるかもしれない。そのような場合にはつくった物を壊すことも必要なのではないか。	全国的には、蛇行した河道を復元するという事例もある。常に新しい視点に立ち、過去に施工したのを見直していくという考え方は重要であり、今後も検討してまいりたい。
工事	D委員	施工中の濁水について	海面で漁業をする立場としては、工事の際に発生する濁水は海面に与える影響が非常に大きいので、出来るだけ濁水が少なくなる工法の採用に努めて欲しい。	今後とも、十分に配慮してまいりたい。
管理	D委員	流木について	中洲の樹木が出水時に流木となり刺網、定置網などに大きな被害を与えるので、早期の除去に努めて欲しい。	河道内の環境等にも配慮しながら、適切な時期の中洲の樹木の伐採に努めたい。
環境	E委員	河床(瀬と淵)について	瀬や淵を形成しようと思えば、現在実施している考え方や工法では困難である。瀬や淵を形成するには、河川工学の考え方からは「常識はずれ」と思われるようなことをやる必要があるのではないか。	治水機能を確保しながら、極力、自然環境の保全に努めてまいりたい。具体的な箇所の問題については、委員とも相談してまいりたい。

第5回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成16年3月25日(木)13:30~16:00

項目	発言者	意見	内容	対応
高水	F委員	流出解析について	『ゲリラ的な豪雨』を洪水計画に反映する方法としては、 (1)10分、5分単位の短時間降雨データの活用。 (2)流出解析を、現況のみではなく非浸透域を増加させる等の仮想の土地利用形態でも行ってみる。といったことが有効であると考えられる。	ゲリラ的な豪雨は、降雨量、降雨の地域分布及び時間分布の把握が難しく、流出モデルへの反映は従来の手法では困難と考える。今後の専門家の研究、手法の開発に期待したいと考えている。
環境教育	G委員	啓発活動について	子供たちに川の良さ、川の恐ろしさを知らせていくことが大切である。	小学校の総合学習の時間等を利用して、治水、利水、環境など河川の様々な面の学習に協力しており、今後とも継続していきたい。